

138

予想発表時期03年
BMW

6シリーズ

最新技術満載の
プレステージサルーン

Hans G.Lehmann/ORION PRESS

70年代から80年代まで作られた、流麗なフォルムを持つミディアムサイズ・クーペ、6シリーズが再びラインナップされる。しかし、これは5シリーズをベースにしたフル4シーターの2ドアクーペ、およびカブリオレ。メルセデスCLKやアウディA6クーペをライバルとするこのモデルは、従前の6シリーズを凌ぐ斬新なスタイリングを持ち、高級感だけでなくスポーツテイストも非常に高く仕上げられている。搭載されるパワーユニットは最新の2.2 直6から3 および4.4 V8までのガソリンモデルと3 直6および4 V8の共通レールディーゼルユニットが用意される。そしてトップ・グレードは、現行M5と同じ5 V8 DOHC32バルブを搭載するM6となる。

139

予想発表時期01年
BMW

7シリーズ

最新技術満載の
プレステージサルーン



EDITORIAL NETWORK

メルセデスSクラスに遅れること3年、現在のBMWのフラッグシップモデル7シリーズがFMCする。現行モデルが先代7シリーズからのキープコンセプトだったのに対して、次期モデルはかなりアグレッシブなスタイルになる。これは現行Sクラスがマイバツハという上級モデルを持つことになり、思いきったサイズダウンとデザインを採用したように、7シリーズの上に大型超豪華車の9シリーズを加えることが決定したからだ。この9シリーズのベースとなるために、5シリーズよりもはるかに豊かな居住空間とラゲッジスペースを持つスポーツセダンとなる。パワーユニットは、3.5 および4.4 のV8、そして6 までスケールアップされたV12となる。

140

予想発表時期02年
BMW5シリーズ
Eクラスとの決着は
2年後につける



00年のパリ・サロンで、フェイスリフトモデルをリリースしたばかりの5シリーズだが、ライバルのメルセデスEクラスともども02年にFMCされる。パワーユニットが今回のマイナーチェンジで新型が搭載されたため、共通レール式ディーゼルエンジンの追加などにとどまる。ボディスタイリングは、現行車よりもラウンディッシュフォルムを強めたもので、99年のZ9に代表されるようなものが採用される。高級車とはいえ、BMWはあくまでもドライバーズカーであることを強調する。

141

予想発表時期01年
BMW・X7
X5の成功で
SAVラインナップ拡大!

BMWはX5の成功で、各クラスにSUVならぬSAV(スポーツ・アクティビティ・ビークル)のXシリーズを加える。そして、その最上級モデルがX7。その名のとおり、7シリーズをベースにしたオン&オフロードモデルで、ライバルはV12のBMWエンジンを搭載するレンジローバー。しかし、広い居住スペースとその大柄なボディからは想像できないくらいスポーティな運動性能は、BMWならではのもの。V8、V12ガソリンに加え4 V8ディーゼルの搭載も計画されているが、これはヨーロッパ専用。

142

予想発表時期01年
BMW
3シリーズ



迫力満点のNEW5シリーズ風に
フェイスリフト

人気の3シリーズも新型Cクラスのデビューで、フェイスリフトの時期を迎えることになった。ライトは、丸型4灯式だがマイナーチェンジした5シリーズ同様、4つの丸い蛍光管リングがクリアランスライトとしての役割をはたす。パワーユニットも直6モデルを中心にパワーアップされる。

EDITORIAL NETWORK

143

予想発表時期02年
BMW

Z3

3シリーズベースの
スモールロードスター

Radovan Varicak

旧型3シリーズがベースとなった現行Z3だが、次期モデルは当然最新のE46をベースに作られる。とはいっても、現行のMロードスターやMクーペ、Z3クーペは残念ながらフェードアウト。321psのパワーとZ8の半分の価格はやはりキツかったようで、強度的にも利発的にも難しかったようだ。

144

予想発表時期04年
BMW

Z9

前衛的なボディをまとう
スポーツクーペ



99年のフランクフルトショーでは、フル4シーターのクローズドボディ、00年パリ・サロンでは2+2のカブリオレとなったZ9だが、8シリーズがベースとなるZ9はスポーツ志向の高いモデルとなる。パワーユニットは、V8とV12のガソリンモデルだが、水素燃料による車両も追加される。

145

予想発表時期02年
ミニ・カントリー

00年パリ・サロンでワールドプレミアをはたしたBMWプロデュースのミニ・クーペ。実際の販売は01年秋からだ。早くもバリエーション追加のニュースが入ってきた。それはボディを若干引き伸ばしたワゴンモデル、カントリー。これは、往年のミニのワゴンカントリーから取ったもの。

146

予想発表時期03年
ミニ・ロードスター

Y,Hiro

ミニのバリエーションは、スタンダードボディやワゴンにとどまらない。なんとフル4シーターのオープンも用意されているのだ。パワーユニットは90psのスタンダードユニットから、150psを発生するスポーツユニットまで用意される。これでBMWは自社のブランドの価値を変えずに顧客層を広げる。

147

予想発表時期04年
BMW8シリーズ

80年代後半にデビューした、8シリーズは当初採用されたV12のトラブルに悩まされ、およそ10年ほどでフェードアウトしてしまった。しかし、次期8シリーズは次期7シリーズをベースとしたもので、シャシー、パワーユニットともにBMWにふさわしい。ライバルのメルセデスCLに走りで差をつけるだろう。

148

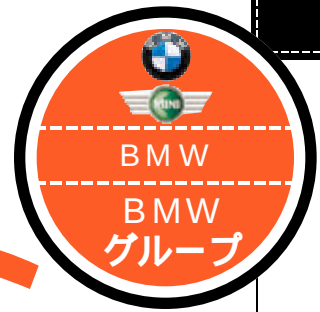
予想発表時期03年
BMW・X3

X5の成功に味をしめたBMWでは、3シリーズをベースとした小型SUV、X3を計画。最近、生産拠点となるオーストリアのシュタイア工場の増資を発表し、生産準備は整いつつあるようだ。X3はコンパクトなサイズと軽快なフットワークを売りにするモデル。主にヨーロッパ、日本向け。

136

予想発表時期02年

3シリーズコンパクト



コンパクトだけに与えられる丸目4灯をついに生撮り!!

メ

ルセデスベンツCクラス
のスポーツクーペが、パ
リ・サロンでベールを脱

ぎ、そのスポーツテイストの強さが
ら、明らかにBMWが得意としてい
る若い層を狙っているといことが
判明した。そのことに焦りを感じた
BMWは、自分が抱える顧客を守る
うと次期3シリーズコンパクトの開
発を急いできた。そしていま、最終
バージョンコンパクトが路上テスト
に駆り出されている。

現行のコンパクトは、セダン、ク
ーペと同じフェイス（セタンがFM
Cをしいまとなつては、すでに違
う顔なのだが）を持たせ、パーツな
どの共有化を図っていた。しかし、
パーツの共有化からコンパクトが独
自のモデルと認められず、ブアマン
ズモデル（廉価版）と思われがちな
のも事実。

ドイツ人のジョークだが、「ミラー
に迫る3シリーズに道を譲つたらコ
ンパクトだった。次の3シリーズも
コンパクトだろうから今度は道を譲
らないよ」。こんなジョークが生ま
れるのは販売上の成功作ではあつた
証拠。が、道を譲つてもらえなくな
つたセダン、クーペのユーザーにと
つては決して笑えないジョークだ。
そんなユーザーに、次のコンパクト
はフェイスを変える」とでも脅され
たのだらうか。BMWがつた策は
何とベンツのモデルチェンジの堂々
手段ともいえるライトモジュールの
変更であつた。

ただし、丸型4灯の制約は外され
ず、カパーリングを持たない独立4
灯フェイスとなつた。そしてリアコ
ンビネーションランプは、我々には
見えのあるアルテツァとソック
リのデザインだ。若いユーザーが何

を欲しているか、試行錯誤を繰り返
してきたBMWには確かなノウハウ
があると思われていたが、とうとう
日本発のトレンドを受け入れる事に
なつたようだ。

最近BMWはローバー200と4
00の中間のクラスに対応するモデ
ル、つまり2シリーズとも呼べるモ
デルをFFではなくFRで開発を進
めると正式発表。このモデルが投入
されると、実はコンパクトの位置づ
けが微妙になる。FFであれば異な
るモデルとして存在できるかもしれ
ないが、おなじFRとなると、どこ
で差別化するのか？ 微妙にサイズが
違つただけでは共存は難しい。こうし
た背景もあつて、先に登場するコン
パクトが後から登場する2シリーズ
にマーケットを分け与えるという意
味をこめて、デザイン上で、ちょつ
と変わったBMWという路線を取
り始めたとも考えられる。このコン
パクトの登場は、ブラザー・コンセ
プトの崩壊、各シリーズの今後の独立
路線を示しているのだらう。

4気筒をメインにしながらも、6
気筒を積んでウルトラ・スポーツと
する事でブアマンズモデルからの脱
却を図るコンパクトの登場は2年後
だ。

リアコンビはアルテツァそっくり。若いう
ちのデザインを日本車に求めるといふのは、
BMWにしては前向きな決断だ。た
だ、

ついに姿を現した3シリーズコンパクト。これ
までの予想どおり、クリアカーを取り去つた
独立4灯のマスクだ。もはや廉価版的な面影は
見られない。

スポーツクーペを名乗るメルセデス以上のスポ
ーツ性能を与えるため、徹底的にニルブルク
リンクで鍛えられるコンパクト。

スポーツクーペを名乗るメルセデス以上のスポ
ーツ性能を与えるため、徹底的にニルブルク
リンクで鍛えられるコンパクト。

137

予想発表時期03年

BMW 2シリーズ ベーシックモデルも FRに決定!!

ローバーグループと決別したBMWは、
自社の手で3シリーズよりも小さいモデル
の開発をしなければならなくなった。しか
し、「ミニ」と異なりFRを踏襲するという
ことで、3シリーズ(及び4シリーズ、つ
まりコンパクト)とプラットフォームを流
用することで、若干トータルコストを低減
することが可能になったという。

Hans G. Lehmann
/ORION PRESS